

2012年3月期第2四半期決算説明会 Q&A 議事録

日時:2011年11月4日(金) 10:00~11:30

場所:大和コンファレンスホール 18F A1・A2

【質疑応答】

Q1:

油圧機器事業のうち、中国向けはどのくらいで見ているのか。11/3期上期及び下期実績、12/3期下期の見通しそれぞれの数字を頂きたい。

A1:

前年度(11/3期)の中国工場の実績を100とすると、今(12/3期)上期は20%操業度がアップしている。下期は前年同期比で20%落ちる見込み。10-12月の操業度はピーク時の40%と予想している。その先についてはまだ顧客各社からの情報を十分には織り込んでいない。

Q2:

中国の鉄道事業の12/3期売上計画85億円のうち、上期実績をお教え頂きたい。また、産業用機器事業のうち、ギルゲン社の12/3期計画に計上される9ヶ月分売上、受注、のれん償却前の営業利益の数字についてもお教え頂きたい。

A2:

12/3期上期売上実績は40億円弱。下期は約50億円の見込み。ギルゲン社の12/3期計画の売上、受注、利益については、9ヶ月で約120億円。受注は景気影響を受けにくくプラスマイナスが緩慢で、保守サービスの比率が大きいこともあり、売上と同等ないしは微増で見ている。利益についてはまだ申し上げられる段階にない。

Q3:

産業用機器事業の受注が12/3期2Qでものすごく増えているが、ギルゲン社ではなく、他の事業の受注が増えているという理解で良いのか?

A3:

産業用機器事業の12/3期2Q受注の急増の背景は、ギルゲン社の受注残高を受注高として受け入れて計上したことによるもの。

Q4 :

先程の事業説明会にて、世界の建物用自動ドアの需要は 43 万台との説明を頂いたが、これは設置台数、販売台数のどちらになるのか？また中国市場は 2 万台と少なかったが、物が違うのか、それとも捉え方が異なるのか？

A4 :

売上台数。建物用自動ドアの場合、設置台数とそれほど時間差はないことから、台数に大きな違いはないと思う。あくまでざっくりとした数字。また台数の前提は、中高級品。中国市場は 7~8 万台あると見ているが、そのうち中高級品は 2 万台と捉えている。

Q5 :

中国油圧機器工場売上のうち、現地建機メーカー向けの比率をお教え願いたい。

A5 :

弊社油圧機器上海工場の走行モーターの上期売上高実績は、中国現地メーカー向けが 55%、日系を含めた外資系メーカー向けが 45%。中国建機市場では、販売台数は機種によってことなるものの、概ね 40%のシェアを中国メーカーが獲得している。データは中国の建設機械工業会のもの。

Q6 :

先元で中国現地建機メーカーの在庫調整の話が出ているが、この影響は？

A6 :

油圧機器事業部門の営業からの報告によると、中国現地メーカーは約 2 万台の在庫、2 万台分の部品を持っていると聞いている。適正在庫をどう見るかだが、日系メーカーは受注と在庫のギャップを小さくするように取り組んでいる。2 ヶ月分の在庫を持っているのが適正かどうかは、お客様(=現地建機メーカー)ご自身の判断によるが、減産をしてきている状況下では、トータルで 4 万台の在庫は多いだろう。それが当社中国工場の操業度がピーク時の 40%に止まっており、一時帰休をせざるを得ない背景にもなっている。

Q7 :

中国の鉄道事業について、12/3 期売上計画を 85 億円に下方修正しているが、13/3 期以降の見方について、高速鉄道、地下鉄に分けて教えて欲しい。

A7 :

高速鉄道向けに関しては、楽観視していない。中国の(鉄道事業の今期)国家予算が 7,000 億元から 4,500 億元と大幅に減らされている。来期も減り、2 年間で 5,000 億元程度減ると見ている。需要が来期に回復するとは見ていない。地下鉄向けについては、地方予算なので、チャンスはあると考えてはいるものの、銀行の融資が厳しい状態。事業認可は降りていても、予算が執行されていない所もあると聞いている。来期売上は今期と同程度、またはプラスアルファが得られればと、現時点では考えている。

Q8 :

鉄道事業の品質問題対応費用については、収束したという見方で良いか？

A8 :

これまでの特定品質の問題については、終結したと考えている。

Q9 :

精密減速機の 12/3 期上期の納期対応費用は 10 月で収束して、11 月から正常化しているという理解で良いのか？

A9 :

お客様の納期に間に合わせるために通常と路線を変える対応については、10 月で終わった。ただ増産に対応するための人件費増は現在も続いているため、この影響は下期にも生じる見込み。

Q10 :

12/3 期計画で減価償却費が 3 億円減っているが、事業別ではどこが減っている？主には精密機器事業？

A10 :

精密機器事業は若干増加。主に輸送用機器事業が減少している。

Q11 :

12/3 期下期の精密機器事業の営業利益計画を当初より下方修正しているが、もっと利益が出て良いのではないか？

A11 :

減価償却の発注ベースは当初より増やしているものの、受入ベースでは遅らせている。レイアウト変更が発生することもあり、生産性が当初見込んでいたよりも上がっていない。生産性向上による営業利益率改善は 12/3 期下期以降。当初見込んでいたよりも時間がかかる。

Q12 :

12/3 期営業利益計画で品質問題対応費用の減少が 22 億円、増益要因となっているが、期初計画では生産性向上と合わせて 45 億円の増益要因だった。この差はどこになるのか？生産性向上の期初見通し 33 億円は精密機器事業で見込めなかったものとの関係するのか。

A12 :

生産性向上が達成出来ていない事業は、精密機器事業と、航空・油圧機器事業のうち国内の油圧機器事業。中国工場では作る製品の種類が一定しているが、それをバックアップする国内工場の方が当初見込んでいた程には利益が出ていない。

Q13 :

航空・油圧機器事業の 12/3 期下期について。仮に下期が 2 割減収になったとしても、営業利益はこれほど減るのか？

A13 :

操業度損や製品構成差がある。油圧機器上海工場では操業度が落ちて来ている。生産している品目の需要が落ちて来ているため。30 トン、40 トンクラスのパワーショベル需要は鉦山機械向けで堅調で、中国工場の単体売上もそれほど落ちてはいないが、これは日本の工場からの輸入であり、連結では内部消去で相殺されるため、利益は薄い。国内工場では東日本大震災の影響で 7 トン、13 トンの需要が増えているが、重量が小さい製品ほど利幅は少ない。これが減益要因になっている。

Q14 :

中国の鉄道事業の 12/3 期売上計画 85 億円の内訳を教えてください。

A14 :

12/3 期上期実績は高速鉄道向け 50%、地下鉄向け 50%。下期見通しは高速鉄道向け 55%、地下鉄向け 45%。

Q15 :

12/3 期のフリーキャッシュフローの見通しについて。12 月に転換社債110 億円が償還予定であり、また今後の設備投資資金も必要と思われるが、新たな転換社債を発行する予定はあるか。

A15 :

将来に渡って発行しないと断言は出来ないものの、銀行借り入れにより 100 億円の資金調達も行っており、現時点で必要な資金の手当はしている。

Q16 :

中国の建機市場について、いつ頃調整が終わると見ているのか。また、設備投資計画の見直しを図る可能性はあるのか。

A16 :

現在、情報を集めている最中。2 つの見方があると聞いている。2012 年の春節ビジネスの需要は前年通りの水準になるとする見方と、前年ほど見込めないとする見方。現在進めている中国第二工場の投資については、土地と建屋までは実行する予定。第二工場は、従来の中国工場で生産していない品目の生産を検討しているが、実行するタイミングは市場動向をギリギリまで見て判断したい。

Q17 :

販管費について。12/3 期上期だけで販管費が大分増えるようだが、その背景を教えてください。

A17 :

新本社への移転費用を 12/3 期上期に実施したこと、米国ワシントン大学での共同研究について 6 月に費用計上していること、11/3 期業績は当社にとって最高益だったため賞与にも反映させたことの 3 点が要因。

Q18 :

油圧機器事業で中国現地建機メーカーへ戦略的な営業展開をかけることが今後あり得るのか。

A18 :

中国における一つの産業分野で外資系メーカーが過去に 70~80%の市場シェアを持っていたのは異常であり、将来的には中国現地メーカーの割合が増えると思っている。中国現地メーカーの生産は年々倍増の勢い。6 トンのパワーショベルでは日系メーカーの割合が減った分、中国現地メーカーの割合が増えていると聞いている。どの建機メーカーのシェアが増えるかは何とも言えない。当社はそういった市場での成長を目指している。

Q19 :

精密機器事業の 12/3 期下期の営業利益計画について、期初想定より営業利益 6 億円引き下げたと思うが、納期対応費用が増えたのか、他の何かが増えたのか、理由を教えて欲しい。輸送用機器事業の下期売上高は過去の受注残高の対比からすると、高すぎるのではないか。中国の鉄道事業の売上が上期より下期の方が若干増えるとのことだが、船用機器、商用車用機器はどう？

A19 :

精密機器事業の 12/3 期下期の営業利益計画を引き下げた理由は、コストリダクションの未達が主要因。材料費の値上げ分の回収が十分には出来ないこともあり、生産効率が当初見込んでいたよりも上がらない見込み。従って 12/3 期上期の減益要因と下期のものとは性質が異なっている。輸送用機器事業の売上については、以前受注した案件が後ろずらしになっている分があるので、上期に予定していたものが下期に売上計上される見込み。13/3 期に少し影響が出て来る可能性がある。

Q20 :

輸送用機器事業は 13/3 期通期では減収になる可能性があるのか。

A20 :

売上の伸びを期待していたが、中国の高速鉄道事故の影響で横ばいを予測している。

Q21 :

13/3 期の減価償却費の計画は？

A21 :

中期経営計画では、12/3 期計画比で約 30%増を見ている。

Q22 :

タイ工場は、洪水の影響により生産体制は現状どうなっているのか。

A22 :

タイでは油圧機器と商用車用機器の 2 つの工場あるがいずれも浸水被害はなし。ただしサプライチェーンは崩れており、商用車用機器事業では一部を日本国内で生産するよう対策を講じている。もうひとつの油圧機器事業で問題が起きれば上海工場でバックアップ生産出来る体制はある。

Q23 :

中国の油圧機器の工場では、12 月までは一時帰休が発生するとのことだが、12 年 1-3 月はどうなる見込みなのか。

A23 :

中国の油圧機器事業に関しては、まだ顧客から 12 月までしか生産計画が出ていない。1 月は本来ならば春節準備のためにフル稼働に入る時期のはず。日系メーカーからは既に 12 年 1 月分までの生産計画が全て来ている。それを見る限りでは、多少需要が上向くのかというレベルで、以前ほどの水準には届かない見込み。ただし中国現地メーカー向けの需要ははっきりしない限り、稼働水準は読めない。中長期的にはどこかのタイミングで需要は戻るはずだが、12 年 1-6 月の中国現地メーカーの需要はあまり期待して見てはいけないと思っている。楽観視はしていない。

以 上